

# 4

## Social

社会

## Supply Chain

サプライチェーン

4 社会

【安全】…………… 36

【品質】…………… 49

【人権】…………… 65

【人材】…………… 72

【サプライチェーン】…………… 98

> 基本的な考え方…………… 99

    購買の基本的な考え方…………… 100

    購買のグローバルマネジメント…………… 102

    購買に関する取り組み…………… 103

    物流の基本的な考え方…………… 108

    物流のグローバルマネジメント…………… 109

    物流に関する取り組み…………… 110

    業界団体・サプライヤーとの  
    取り組み…………… 114

【社会貢献活動】…………… 115

# 基本的な考え方

## サプライチェーンのサステナビリティ強化に向けて

環境問題や人権問題に配慮しながらも、世界各地のお取引先とサプライチェーンを構築し、その最適化に力を注ぐことは、より良い製品・サービスをお客様に迅速かつ安定的に提供するためにも必要とされています。

裾野が広く、多くのお取引先によって支えられている自動車業界は、自社単独ではなく、お取引先を含めたサプライチェーン全体で環境負荷低減を追求していく必要があります。

また、昨今、コンプライアンスや人権に対する世界的な意識が高まるなか、自社のみならず、お取引先の労働環境や法令遵守などの状況を適切に把握し、必要な場合は是正に努めることが、企業に求められています。

Hondaは、サステナビリティに対する考え方を全世界のサプライヤーと共有し、ともに推進していくための「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」を発行しています。

このガイドラインに基づきお取引先とともに、それぞれの開発・製造現場で、サステナブルな取り組みを積極的に進めていくことで、地域に根付き、好かれ、「存在を期待される企業」として、地域社会と共存共栄するサプライチェーンの実現をめざしています。

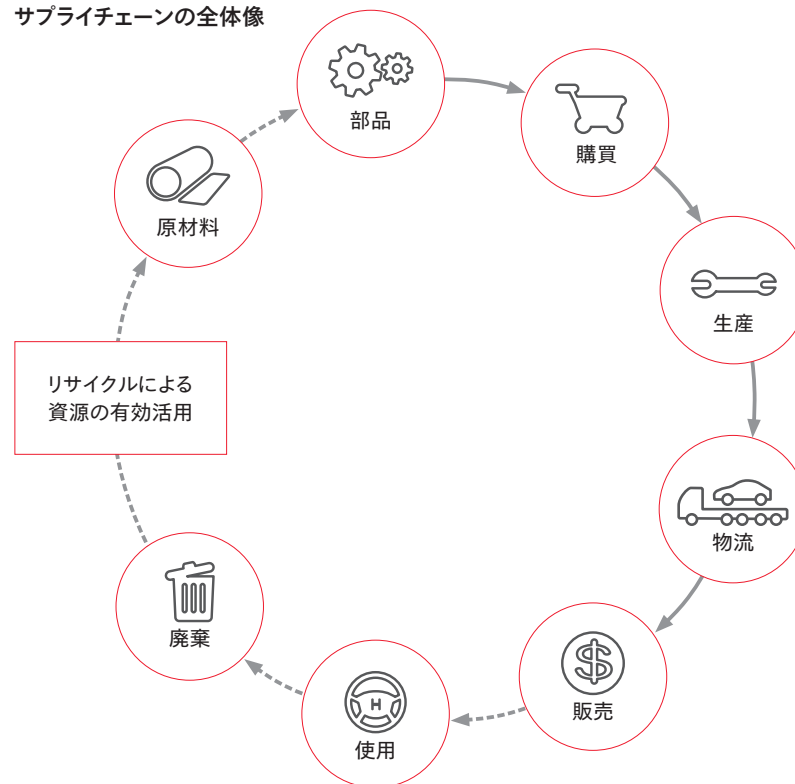
サプライチェーンにおけるサステナビリティ強化は、主に購買領域と物流領域で取り組んでいます。

また、昨年度の組織再編により購買と物流領域を束ねたサプライチェーン全体のグローバル会議体として「グローバル会議」を発足させ、継続的に開催しています。

この会議体では主に下記の3つを目的とし、全地域で会議を開催しています。

- 6地域共通テーマについて、テーマ別に適切なタイミング・メンバーにて議論を行う
- 各地域発のグローバル課題について、サプライチェーン購買領域のトップ間で直接議論し課題解決を図る
- 今後課題となり得る案件を共有し、対応方向性を議論する

サプライチェーンの全体像



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
- > 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
  - 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの  
取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買の基本的な考え方

### 購買理念／購買3原則／購買スタッフの心得

Hondaは、世界中すべてのサプライヤーとともに、環境、安全、人権、コンプライアンス、社会的責任などに配慮し、サプライチェーン全体でサステナブルな社会の実現に取り組んでいます。「Hondaフィロソフィー」をベースとして、「購買理念」「購買3原則」を定め、公平、公正、かつ透明性の高い取引を行っています。

また、購買活動を行う従業員一人ひとりが守るべきことを「購買スタッフの心得」としてまとめ、本心得を遵守することで、社内外からの信頼およびサプライヤーとの健全な関係を、より確かなものとしています。

### 購買理念と購買3原則

わたしたちは、「購買理念」「購買3原則」を通して、公平、公正、かつ透明性の高い取引を行います。

#### 購買理念

良い物を、適正な価格で、タイムリーにかつ、永続的に調達する

#### 購買3原則

##### 自由な取引

わたしたちは、品質や量、価格、タイミングを満足し、かつサステナビリティに対する考え方を共有できるお取引先と、自由競争に基づく取引を行います。

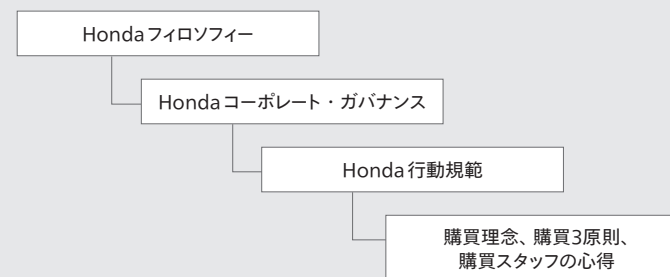
##### 対等な取引

わたしたちは、企業規模や国籍等にかかわらず、お取引先と対等の立場で取引を行います。

##### お取引先の尊重

わたしたちは、お取引先の経営とその主体性を尊重します。

### 購買理念・購買3原則・購買スタッフの心得の位置付け



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
- > 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
  - 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

# 購買の基本的な考え方

## サプライヤーとのエンゲージメント

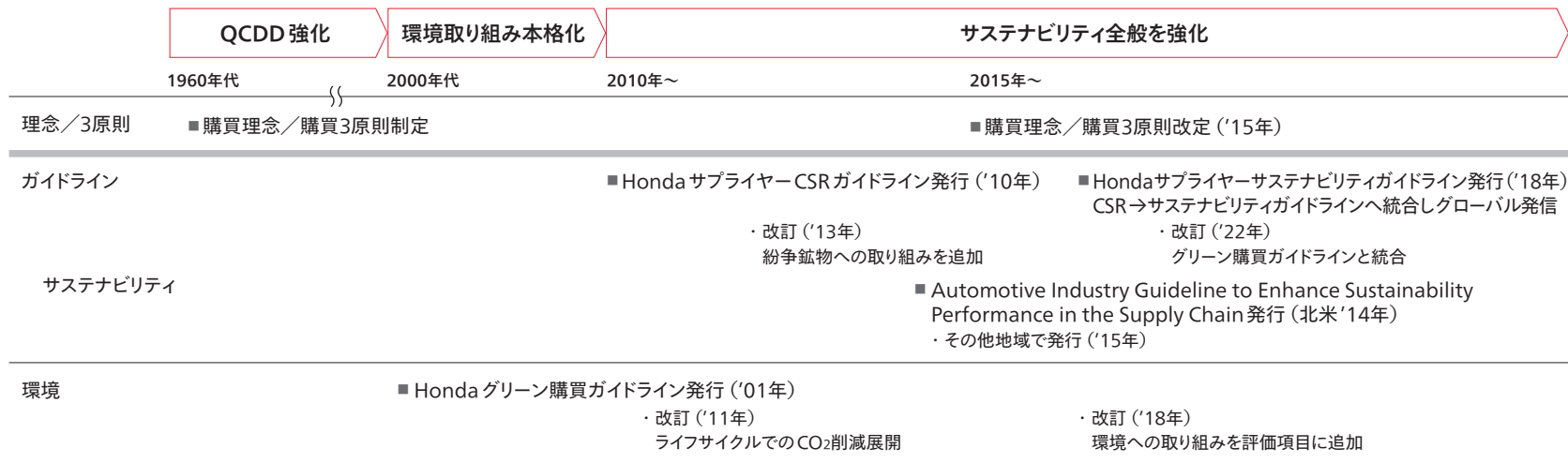
Hondaは、グローバルでの部品調達活動をするなかで、全世界のサプライヤーとともにサステナビリティの取り組みを推進し、各地域社会と共存共栄するサプライチェーンの実現をめざすという考えを「サステナビリティビジョン」として掲げています。さらに、そのビジョンのもと、サステナビリティに対する考え方を全世界のサプライヤーと共有し、ともに推進していくための方針として「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」(右リンク参照)を発行しています。

このガイドラインを通じて、人権に関する負の影響・リスクをはじめとするコンプライアンス違反など、問題事象の未然防止、および環境負荷低減に努めています。

実際に問題事象が発生した場合には、サプライヤーからの即時報告を受け、原因分析・改善計画の策定を依頼し、再発防止を図っています。

サプライヤーからの改善計画が十分でないと判断された場合は問題事象の社会的影響度を鑑みながら、取引を停止するなど、将来的な取引の継続について検討します。

### 購買活動の変遷



併せて、サプライヤーでの取り組み状況の点検や二次サプライヤーへの展開のためのチェックシートを活用し、サプライチェーン全体にガイドラインが浸透し、推進されるよう努めています。

これらサステナビリティの方針に基づき、部品や原材料の調達先の選定にあたっては、QCDD<sup>※</sup>、人権、労働、安全、コンプライアンス、リスクや情報保護などへの取り組みを確認し、最適なサプライヤーを決定しています。

また、サステナビリティに関する社会要請の高まりを受け、2024年3月を皮切りに、グループサプライヤーとの定期的な情報共有会を開始しました。

### サプライヤーからの提案・相談受付窓口の設置

「企業倫理改善提案窓口」(⇒p.138)を設置し、公平かつ中立な立場で、すべてのサプライヤーから提案や相談を受け付けています。

「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」  
 ■ <https://global.honda.jp/sustainability/supply-chain/pdf/supplier-sustainability-guidelines.pdf>

※ QCDD: Quality (品質)、Cost (コスト)、Delivery (調達)、Development (開発)、Environment (環境) の略。

4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
- > 購買のグローバルマネジメント…………… 102
  - 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの  
取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買のグローバルマネジメント

### 推進体制

Hondaは、世界6地域で事業を展開しており、それぞれに購買の機能を設け、「需要のあるところで生産する」という会社理念に基づき、各地域での現地調達を推進しています。主要な生産拠点である北米における現地調達率は、主要グローバルモデルで約80%に達しています。

日本には、サプライチェーン購買本部長（執行役）を監督責任者としたグローバル全体の機能を統括する部門を置き、地域・事業を横断的に取りまとめ、サステナビリティ方針や展開目標を企画しています。2016年には、サステナビリティの取り組みを強化・加速するため、専任部署を設置しました。

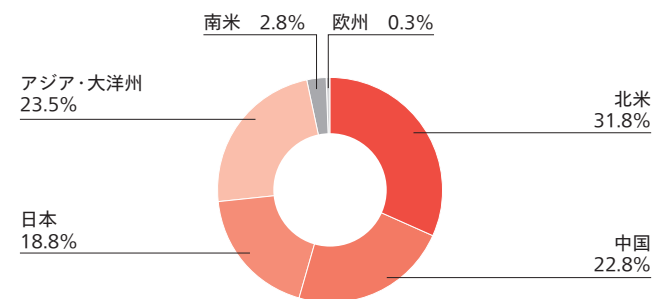
さらに、グローバルでの中長期的な方向性について議論・検討するために、各地域のマネジメント層との会議を定期的に行い、連携を図っています。

また、グローバルサプライチェーン全体で低炭素への取り組みを強化するために、「購買環境会議」を2011年から開催してきました。

2016年度からは、人権やコンプライアンスなどの取り組みを加え、「購買サステナビリティ会議」へと進化させ、定期的に行っています。

グローバルでの取り組み方向性の議論・整合を行い各地域で連携しながら活動を強化しています。

地域別の購入額比率（2023年度）



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
- > 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買に関する取り組み

### カーボンニュートラル実現に向けたサプライヤーとの取り組み

Hondaは2050年にすべての製品と企業活動を通じて、カーボンニュートラル（二酸化炭素排出量、実質ゼロ）をめざしています。

その活動の一環として、すべてのサプライヤーに「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」を共有し、サプライヤー各社に同意をいただいています。

日本では、2021年10月にサプライヤーに対し、CO<sub>2</sub>排出総量削減に向けた取り組みの検討を依頼、2022年12月には、2050年カーボンニュートラルに向けた具体的な取り組み施策検討に向け、施策観点の共有を実施しました。

さらに、2024年3月には2050年カーボンニュートラル達成に向けた取り組みを加速すべく、サプライヤーに対して2030年の中間目標（2019年度比▲46%）を発信しました。Hondaは、サプライヤー各社とコミュニケーションを取りながら、協働でカーボンニュートラル実現に向けて取り組んでいます。

### CO<sub>2</sub>データの管理

取り組みの実効性を高めていくために、2011年度からサプライヤーのCO<sub>2</sub>排出量低減に関わるデータを一元的に管理するシステムの整備を進め、2014年度から本格運用を開始しました。

このツールを利用して、グローバル各地域のサプライヤーとともに、総量低減に向けた目標と、その達成状況を共有し、PDCAサイクルを回しています。

2023年現在、グローバルでの購入額の8割に相当する約2,200社にこのツールを活用いただいています。

今後も共有いただいたデータを多面的に分析し、サプライヤーの総量管理目標を含めたCO<sub>2</sub>低減活動に役立てていきます。

4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
- > 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買に関する取り組み

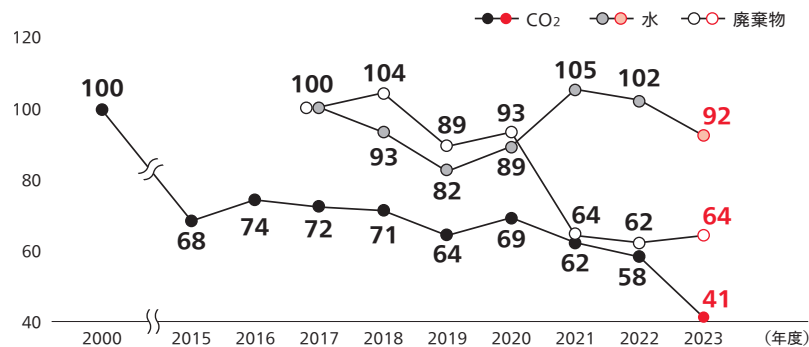
### サプライチェーンでの環境負荷低減の取り組み

Hondaは、地球環境負荷低減に向け、サプライヤーとともにカーボンニュートラルへの取り組みや、資源の効率利用を世界の各地域で進めています。

日本では、2030年のグループサプライヤー各社におけるCO<sub>2</sub>排出量低減目標を2019年度比▲46%と目標を定め、各社とHondaが一体となり、低減活動を推進しています。

また、水・廃棄物については、2018年度より目標管理に向けた取り組みを開始しており、2022年度の目標値（2018年度基準年総量維持）を定め、データの収集を行っています。その一環として、グループサプライヤー各社の進捗・実績分析のためのツールを展開し、環境負荷低減活動の取り組みや体質確認を実施しています。Web確認を通じたコミュニケーション・情報共有などを行いながら、グループサプライヤーと協働で、目標達成に向けた取り組みを推進しています。

環境負荷低減実績  
CO<sub>2</sub>排出量／水資源使用量／廃棄物等発生量 原単位指数



※ データ対象：日本国内連結対象の一次サプライヤーすべて。

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
CO <sub>2</sub> (t/百万円)	1.07	0.95	1.03	0.93	0.86	0.62
水 (m <sup>3</sup> /百万円)	9.29	8.19	8.91	10.51	10.16	9.17
廃棄物 (t/百万円)	0.62	0.53	0.55	0.38	0.37	0.38



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
- > 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買に関する取り組み

### 化学物質管理

Hondaは、製品を構成するすべての部品などに関する法規遵守と、地球環境や生態系に対する影響の軽減を目的とした「Honda製品化学物質管理基準書」を発行しています。グローバル各地域のサプライヤーに対して、この基準に適合する化学物質管理体制の構築を依頼するとともに、基準を満たした部品の供給について保証をお願いしています。その具体的な含有化学物質データについては、業界標準の管理システムを活用し、量産開始前に評価を実施しています。

### 調達リスクへの対策

Hondaは、災害、火災、サプライヤーの財務課題や労働問題など「生産に影響を与えるすべての事象」をリスクと捉え、部品や材料調達に至るまでのサプライチェーン全体で、その低減と顕在化した際の影響の拡大を未然に防ぐための活動を行っています。例えば、調達先を一つの工場に依存している部品や材料を「課題部品」と定義し、全世界で継続的に点検と対策を実施しています。

この取り組みの一環として、2021年から日本国内のサプライヤーを対象に新たなサプライチェーン（Tier2以下の生産事業所）情報が発生した際にはすみやかに調達リスク管理システムに登録するスキームを確立し、大規模災害発生時、被災地のサプライヤー被災状況と生産への影響有無を短時間で把握できる体制を整えました。

また、財務リスクの最小化においては、各サプライヤー調査に基づいた評価を毎年1回実施しています。加えて、第三者機関の情報を参考に、リスク確認を毎月実施しています。

※ RMI: Responsible Minerals Initiative (責任ある鉱物イニシアチブ)の略。

### サプライヤーへの法令遵守要請

Hondaは、コンプライアンスを含めたサプライチェーン全体でのサステナビリティ強化を図っています。取引にあたっては、各国の競争法や贈収賄防止関係法令などの各法令の遵守に加え、安全・防災・環境保全や資源保護などへの留意を明記した「部品取引基本契約書」を取り交わしています。

### 責任ある鉱物調達

Hondaは、電動化にともなうコバルトをはじめとする希少鉱物の需要拡大が、児童労働をはじめとした人権問題につながる可能性があることを認識しており、人権侵害および環境汚染につながる可能性がある鉱物の不使用をめざした活動を行っています。日本では、RMI※が提供するテンプレートを活用し、サプライヤーの協力を得ながらコバルトの製錬所特定を進めています。今後、グローバルでの取り組みも検討してきます。



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
- > 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買に関する取り組み

### サプライヤーへのESG※調査の実施

Hondaは、「サプライチェーンを含めた企業の社会的責任」を果たすことへの国際的な期待の高まりにともない、サプライヤーに向けたサステナビリティ方針の発信とその取り組み状況の確認を行っています。Hondaは、新たにビジネスを開始するサプライヤーに対し、QCDDE観点におけるスクリーニングに加え「Honda サプライヤーサステナビリティガイドライン」に合意いただいております。

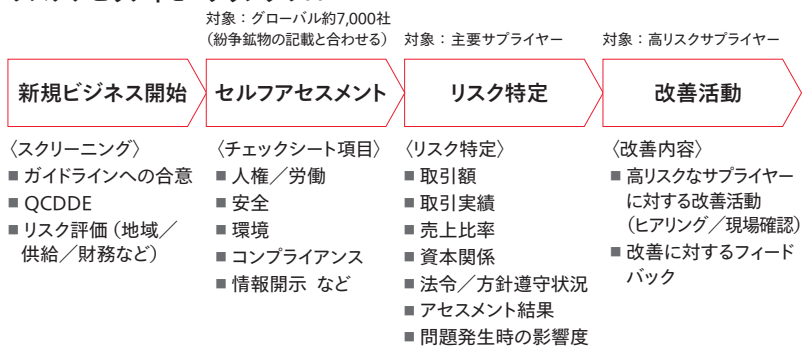
このスクリーニングを経て、ビジネスボリュームなど影響度の高いサプライヤーに対しては定期的に方針説明会やESG調査を実施しています。

ESG調査では、グローバル約7,000社を対象に問題発生の可能性の高さ、発生した問題に対する自社への影響度合いの大きさから高リスクなサプライヤーを特定し、改善活動に向けた対応を図っています。

日本においては、購入額の8割以上を占めるサプライヤーを対象にESG調査を実施してきました。

ESG調査では、以下の項目を実施します。

#### サステナビリティモニタリングフロー



- 国際標準に基づいた「チェックシート」の配布
- ガイドライン遵守状況の確認
- 改善の推進

「チェックシート」においては、人種・民族や出身国籍・宗教・性別などを理由とした差別の撤廃をはじめ、児童労働・強制労働・人身売買の禁止や最低賃金の保証といった人権・労働問題を網羅しています。そのほか、環境、コンプライアンス、情報開示など幅広い評価項目を加えて、サプライヤーの取り組みを確認します。この調査結果をもとにリスクを特定し、その度合いに応じたサプライヤーへのヒアリングや現場確認などを行います。

以下の項目を実施・検証し、改善活動のなかで特定された課題については、サプライヤーに対して改善の要請を行い、改善が実施されない場合は、取引停止の検討を行います。

- 関連帳票・生産工程・関連施設の確認
- 「改善計画・実績報告書」による進捗確認
- フォローアップ調査（必要に応じて現地確認を実施）

直近では、外国人労働者の身分証明書預かり禁止のルール設定や労働時間管理などの項目で、改善が認められました。

北米においては、第三者機関が提供するチェックシート・評価・フィードバックの活用を開始しており、今後グローバルに拡大していくことを検討しています。

また、一部の拠点では、サプライヤーに対し、サステナビリティに関するEラーニングを提供し理解促進に努めています。

調査担当者の力量養成を目的に教育の充実を図りながら、海外の購買拠点とも連携し、サステナビリティ活動調査をグローバルで展開していきます。

※ ESG: Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)の略。



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
- > 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
  - 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 購買に関する取り組み

### 従業員教育研修

Hondaは、購買活動に携わる従業員一人ひとりが、購買理念に則り、公平・公正・かつ透明性の高い取引を推進するために、マニュアルや研修を整備し、OJT※を通じた人材育成を推進しています。

北米では「ビルディング・ビジネス・リレーションズ」において、行動規範、法令遵守や機密保持など、サプライヤーとの良好かつ長期的な関係の重要性についての教育が行われています。

日本でもこれらに加え、サプライチェーン領域におけるESG取り組みへの理解を深めるプログラムをはじめQCDDEの業務理解を深める研修やEラーニングを整備しています。

このように、グローバル各地域において、文化的・社会的背景を考慮したプログラムを開発し、購買従業員への能力開発を進めています。

※ OJT:On the Job Training(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)の略。

4 社会

【安全】…………… 36

【品質】…………… 49

【人権】…………… 65

【人材】…………… 72

【サプライチェーン】…………… 98

基本的な考え方…………… 99

購買の基本的な考え方…………… 100

購買のグローバルマネジメント…………… 102

購買に関する取り組み…………… 103

> 物流の基本的な考え方…………… 108

物流のグローバルマネジメント…………… 109

物流に関する取り組み…………… 110

業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114

【社会貢献活動】…………… 115

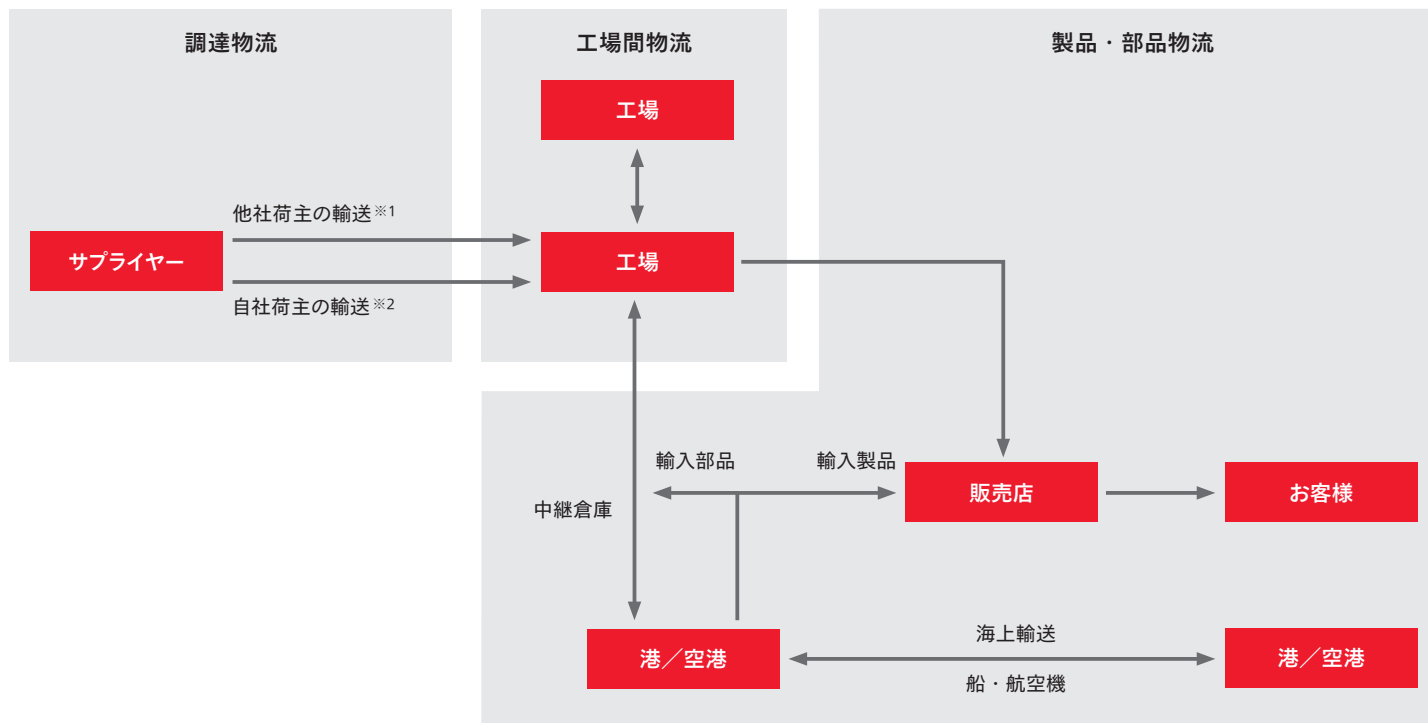
# 物流の基本的な考え方

Hondaでは、製品を構成する部品をサプライヤーから工場へ、そして製造した製品や補修部品を工場から販売店へ輸送しています。製造工程の上流から下流まで、大量の輸送を行うHondaにとって、物流における効率化と併せて、環境負荷の低減およびコンプライアンス・リスクマネジメント

は、重要な課題と捉えています。

物流業者と一緒に環境負荷の低減やHonda荷主として2024年問題によるドライバーの負荷低減など社会的責任として取り組んでいます。

Hondaの物流領域の全体像



※ 1 他社荷主の輸送：サプライヤーが依頼した輸送業者が、Hondaの工場の軒先まで調達部品を持ってくること。

※ 2 自社荷主の輸送：Hondaが依頼した輸送業者が、サプライヤーを回って調達部品を引き取ること。

4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
  - 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - > 物流のグローバルマネジメント…………… 109
    - 物流に関する取り組み…………… 110
    - 業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

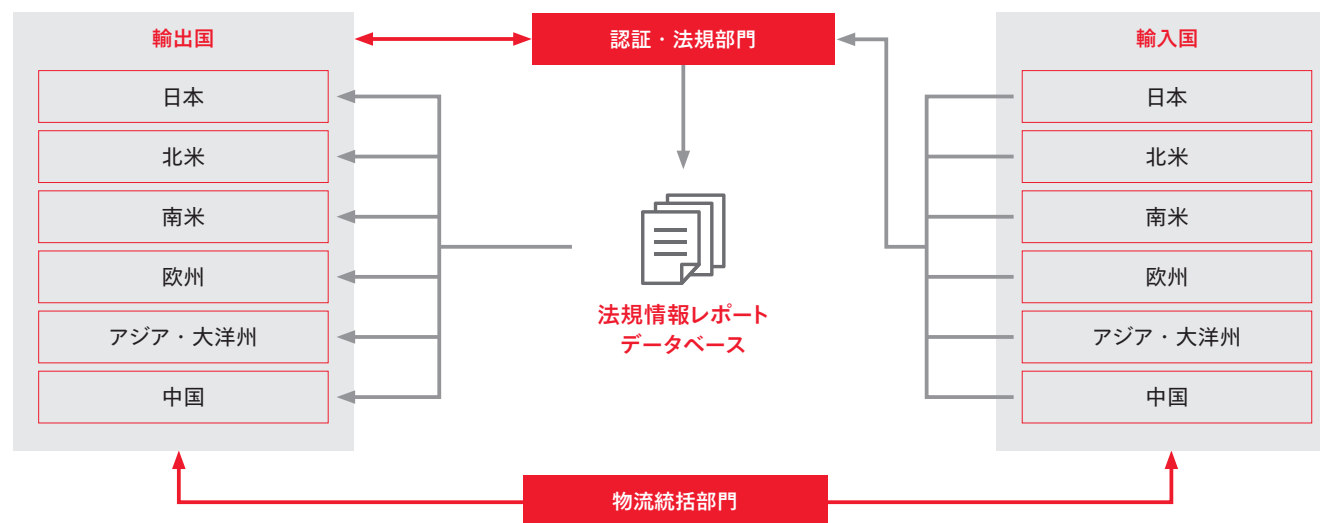
# 物流のグローバルマネジメント

## 物流法規情報の一元管理

国や地域をまたいで製品や部品を供給するためには、各国で異なる輸送インフラや規制、自然災害リスクなど、さまざまな状況を把握・分析することが必要となります。とくに、法規制は、輸送の安全やスピードに大きな影響を与える可能性があります。

Hondaでは、つねに正確な情報をつかみ、グローバル全体で効率良く確実にかつ状況に先んじた対応がとれるよう、物流オペレーションに関わる国際条約や法規情報を一元管理する機能を構築しています。これに加え、より迅速に対応を行うことで、法令遵守対応の強化に取り組んでいます。

### 法規情報の一元管理の仕組み



4 社会

【安全】…………… 36

【品質】…………… 49

【人権】…………… 65

【人材】…………… 72

【サプライチェーン】…………… 98

基本的な考え方…………… 99

購買の基本的な考え方…………… 100

購買のグローバルマネジメント…………… 102

購買に関する取り組み…………… 103

物流の基本的な考え方…………… 108

物流のグローバルマネジメント…………… 109

> 物流に関する取り組み…………… 110

業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114

【社会貢献活動】…………… 115

# 物流に関する取り組み

Hondaでは物流領域において物流業者と一緒に

- (1) 環境負荷低減：2050年カーボンニュートラル実現に向けた取り組み
  - (2) 2024年問題：荷主責任としてのドライバー負荷低減
- という2つの主要な取り組みを行っております。

## (1) 環境負荷低減

環境負荷低減に向けて、

- ① 高効率輸送
- ② 低炭素輸送

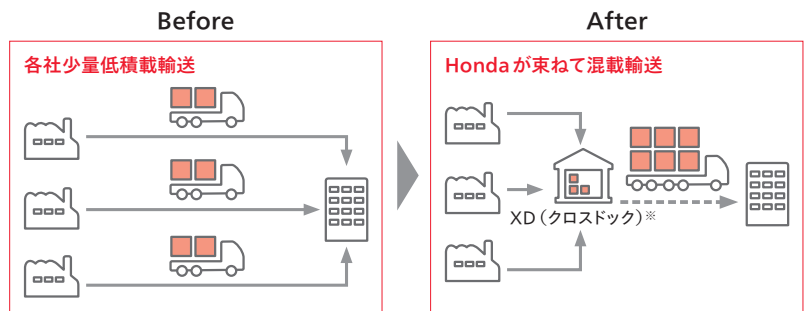
という2つの主要な取り組みを行っております。

### ① 高効率輸送

#### サプライヤー共創による輸送効率向上

サプライヤーが抱えている物流ロスを最小化するために、サプライヤー出荷拠点の最寄りのXD(クロスドック)まで搬入いただき、XDからはHondaが複数社混載で太く束ねて効率良く運ぶ施策です。

その効果として、遠方のサプライヤーの負荷低減やCO2排出量の低減などに貢献しています。

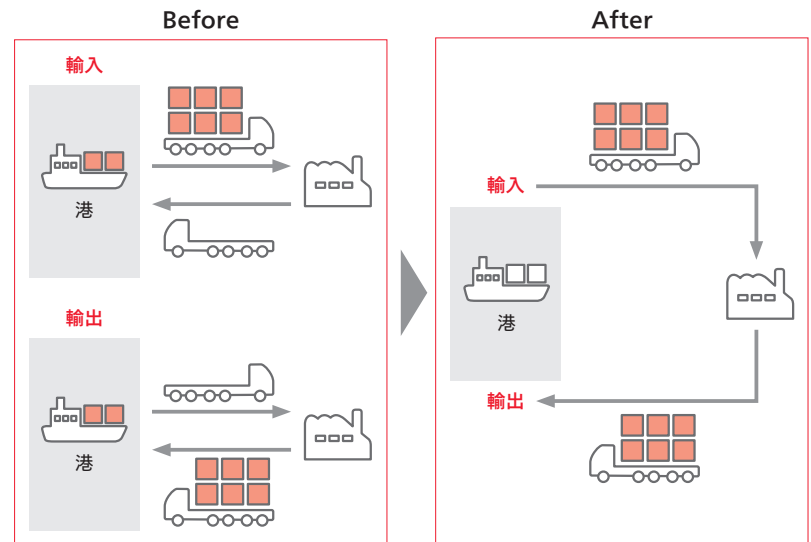


※ XD(クロスドック)：部品の積替えを中心とした機能を持つ倉庫。

## コンテナラウンドユース

コンテナは船会社からのレンタル品であるため、貨物輸送後にすみやかに返却するのが一般的な商慣習です。

しかしながら、Hondaには輸出貨物、輸入貨物があるため、コンテナ返却時に発生するムダな空コンテナ輸送を削減するため船会社と交渉しました。日本では40～60%のコスト削減とCO2排出量削減を同時に達成することができました。



4 社会

【安全】…………… 36

【品質】…………… 49

【人権】…………… 65

【人材】…………… 72

【サプライチェーン】…………… 98

    基本的な考え方…………… 99

    購買の基本的な考え方…………… 100

    購買のグローバルマネジメント…………… 102

    購買に関する取り組み…………… 103

    物流の基本的な考え方…………… 108

    物流のグローバルマネジメント…………… 109

> 物流に関する取り組み…………… 110

    業界団体・サプライヤーとの取り組み…………… 114

【社会貢献活動】…………… 115

# 物流に関する取り組み

## ② 低炭素輸送

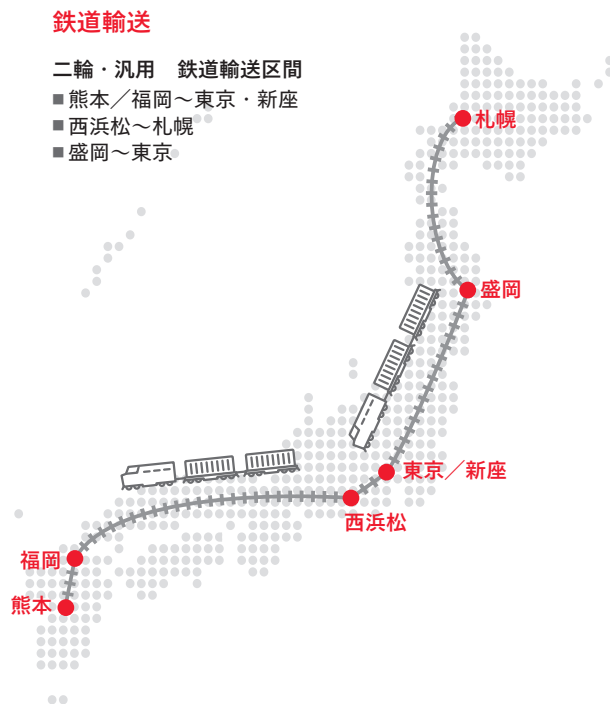
Hondaでは遠方地域への輸送を中心に、輸送手段をトラックから鉄道や船舶に切り替える「モーダルシフト」の拡大に取り組んでいます。

日本におけるモーダルシフトでの取り組みでは、二輪製品や汎用製品、四輪製品の長距離輸送のルートを経由輸送や船舶輸送に順次切り替えています。

海外への取り組みとしてインドやベトナムにおいては、遠方地方への輸送をトラック輸送から鉄道輸送や船舶輸送に切り替えています。また、中国においても同様にトラック輸送から鉄道輸送へ切り替えを行っています。

### 鉄道輸送

- 二輪・汎用 鉄道輸送区間
- 熊本／福岡～東京・新座
  - 西浜松～札幌
  - 盛岡～東京



### 船舶輸送

- 二輪・汎用 船舶輸送区間
- 新門司～神戸
  - 新潟～小樽
  - 白杵～八幡浜





4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
  - 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
- > 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの  
取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 物流に関する取り組み

Hondaは2050年までにカーボンニュートラルを実現することをめざしており、その実現に向けた技術の一つである燃料電池 (FC) システムの応用や展開に取り組んでいます。

中国では、東風汽車集団と共同で、Hondaの燃料電池 (FC) システムを搭載した商用トラックの走行実証実験を2023年1月より湖北省で開始しました。

中国



東風汽車集団と共同で、Hondaの燃料電池システムを搭載した商用トラックの走行実証実験を開始

日本でもいすゞ自動車株式会社と共同でFCの大型トラックへの適合性の検証や、車両制御など基礎技術基盤の構築を進めており、2027年をめどに共同研究で得られた技術や経験・知見を最大限に活かした量産車両の市場導入を予定しており、水素燃料活用の可能性と燃料電池車両の実用性の検証を目的に2023年12月より公道での実証走行を開始しました。

日本



いすゞ自動車株式会社と共同でモニター車を使った公道での走行実証実験を開始



4 社会

- 【安全】…………… 36
- 【品質】…………… 49
- 【人権】…………… 65
- 【人材】…………… 72
- 【サプライチェーン】…………… 98
  - 基本的な考え方…………… 99
  - 購買の基本的な考え方…………… 100
  - 購買のグローバルマネジメント…………… 102
  - 購買に関する取り組み…………… 103
  - 物流の基本的な考え方…………… 108
  - 物流のグローバルマネジメント…………… 109
- > 物流に関する取り組み…………… 110
  - 業界団体・サプライヤーとの  
取り組み…………… 114
- 【社会貢献活動】…………… 115

## 物流に関する取り組み

### (2) 物流2024年問題への取り組み

2024年問題とは、働き方改革関連法により、運送事業者／発荷主／着荷主に対して新たなルール／義務が課せられ、従来通りの輸送ができなくなるリスクの総称です。

Hondaは2019年に「ホワイト物流自主行動宣言」を行い、生産性の高い物流と働き方改革の実現に向け、物流の改善に取り組んでまいりました。

また、2023年6月発布の政府ガイドラインに基づき2024年問題への対応の検討を進め、12月に一般社団法人日本自動車工業会が策定発布した『物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画』を遵守すべく、物流の実態把握と改善に向けた取り組みを行っております。

これからもHondaは、物流業者、サプライヤーと連携し、サプライチェーン全体の物流の効率化、さらにはドライバーの皆様が働きやすい環境づくりに全力で取り組んでまいります。

4 社会

【安全】…………… 36

【品質】…………… 49

【人権】…………… 65

【人材】…………… 72

【サプライチェーン】…………… 98

    基本的な考え方…………… 99

    購買の基本的な考え方…………… 100

    購買のグローバルマネジメント…………… 102

    購買に関する取り組み…………… 103

    物流の基本的な考え方…………… 108

    物流のグローバルマネジメント…………… 109

    物流に関する取り組み…………… 110

> 業界団体・サプライヤーとの  
    取り組み…………… 114

【社会貢献活動】…………… 115

※ 1 AIAG : Automotive Industry Action Group (全米自動車産業協会) の略。

※ 2 自動車業界のサステナビリティを推進するための新たに発足されたパートナーシップ。

※ 3 Computer Based Trainingの略。コンピューターを利用した学習。

※ 4 GHG : Greenhouse Gas (温室効果ガス) の略。

## 業界団体・サプライヤーとの取り組み

Hondaは、自動車業界およびサプライヤーとの連携によるキャパシティビルディング（能力向上）の実施などを通じて、部品・物流のサプライチェーン全体でのサステナビリティ強化に取り組んでいきます。

### 業界団体・サプライヤーとの連携

Hondaの米国子会社ホンダノースアメリカ・インコーポレーテッドは、AIAG※1がサプライチェーンにおけるサステナビリティ強化を目的に設置している「責任ある鉱物調達」「人権と取引」「温暖化対策」「化学物質管理」の4つの作業部会に参加しています。AIAGにおいては、サプライヤーを対象とした研修を進めており、2012年から北米地域で一次・二次サプライヤーに参加いただき、企業倫理、環境規制、労働環境、人権などの研修会を実施しています。

また、自動車業界内外の問題、ニーズ、および動向を積極的に特定することを目的として、AIAGの企業責任運営委員会やDrive Sustainability※2にも参加しています。

さらに北米地域では、サプライヤーに対し、サステナビリティ（環境、輸出管理、社会的責任、安全衛生、多様性、ガバナンス、コンプライアンス・倫理）をテーマに、CBT※3を活用したeラーニングを提供し、サステナビリティに関する理解促進に努めています。

### サプライヤーとの対話

2022年12月に、サステナビリティ情報共有会を開催し、社会動向の共有およびHondaサプライヤーサステナビリティガイドラインに沿ったサプライヤー点検結果のフィードバックを実施しました。

またHondaは、サプライヤーと事業の方向性や取り組み内容を共有する懇談会を世界各地で定期的に行っています。2022年度は、世界23カ所で開催しました。そこでは、QCDDEなどの各領域においてとくに優れた実績を残されたサプライヤーに対して、「サプライヤーアワード」として感謝賞を贈呈しています。

日本地域では、1974年から年1回の懇談会を開催しています。2024年3月の取引先懇談会は対面形式で開催、サプライヤー452社の経営トップに参加いただきました。ここではHondaから全社方針や、将来に向けたサプライヤーとの取り組み施策を発信しました。また2017年度から、ESG全領域における優れた取り組みをされたサプライヤーに対する、「サステナビリティ賞」の贈呈を実施しています。本表彰は、GHG※4に主眼を置いていた旧来の「環境賞」から、社会・ガバナンスにまで観点を広げたものです。

北米地域でも、コンプライアンス、安全衛生、地域社会貢献活動、環境、多様性および人権などにおいて最も貢献されたサプライヤーに対して、「Sustainability Award」の表彰を行っています。



日本地域でのサステナビリティ部門表彰  
株式会社 ジーテクト様